



## 備えあれば、憂い無し

校長 中村 正人

今年の夏には西日本を中心に記録的な大雨がありました。このことは私たちの地域にとって決して対岸の火事ではありません。本校も雲の流れによっては市の避難所として指定され、避難所が開設される予定もありました。これから9月の訪れとともに全国的に本格的な台風や長雨のシーズンとなります。日々天気情報に気を配り、いざというときに備え、市と連携して学校が避難所として機能するよう準備を進めておきたいと思えます。

万が一避難所が開設された場合、まずは、「自助」が大切です。自分が生活していく上で最低限なものは日ごろから自宅に備蓄して持ち出せるようにしておきたいものです。市内で先日避難された方の中には、とりあえず2日分の食料は持参したという方がおられたそうです。施しを受けることを前提に大勢の方が一斉に避難を行うと避難所の機能が麻痺することが想定されます。そして「共助」です。これも先日の市内の避難所開設時のことです。ある方が「自分たちにできることは何でもやります」と市職員に声を掛けてくれたそうです。互いに不足分を補い合って助ける、まさに共助です。そして最後は「公助」です。ライフラインが機能しなくなれば、当然、私たちは避難所や公的機関の助けを受けなくてはなりません。しかし、われわれが意識しておきたいのは「公助」は「自助」の上に成り立つものであることです。先人は、われわれにメッセージを残しています。「備えあれば、憂い無し」。日ごろから心の備えも忘れずに準備をしておきたいものです。

学校裏の高台へ避難する様子



学校ではこれまで火災（引き渡し訓練）、地震と津波、市民一斉合同訓練と3回の訓練を行ってきました。子どもたちは訓練に真剣に取り組み、学校内でどう行動するべきか身に付けつつあります。

毎回必ず、子どもたちには「自分の命は自分で守る」ことを指導しています。災害は、学校でのみ起こるとは限りません。中越沖地震も休日に発生しました。訓練は、ただやればよいというものではありません。子どもたち自身による命を守る行動につながってこそその訓練であり防災教育だと考えます。そして学んだことが生涯に渡って活用されるものであってほしいと願い、「学校にいる時の対応」だけでなく「生き抜く力を育む」ことを大切に指導したいと考えております。

11月9日（火）には荒浜小学校として市の原子力防災訓練へ参加協力をする事といたしました。新型コロナウイルス対策のため参加学年を限定したり、引き渡し訓練を縮小したりすることを想定しながら今後詳細を詰めていきたいと考えております。御協力いただきたい保護者の皆様には詳細が決まり次第ご連絡いたします。御理解御協力をよろしくお願いいたします。